

中学生海外派遣事業報告



オーストラリア・シドニー
令和6年9月21日～28日

1 背景

○平成3年5月23日

アメリカ合衆国ウィスコンシン州メノモニー市と姉妹都市提携

○平成6年12月9日

メノモニー市と教育分野における友好関係樹立

○平成6年度～

メノモニー市への中学生海外派遣事業を実施

○令和6年度

オーストラリア・シドニーへ新たに中学生海外派遣事業を実施

★中学生海外派遣事業 24回 352名

※令和5年度は代替事業として福島県のブリティッシュヒルズで研修

2 目的

市内居住中学生を海外へ派遣し、ホームステイや学習体験を通して、英語力やコミュニケーション能力の向上を図る。また、異文化に接することで、国際感覚を養い多様な見方や考え方を育む。



【教育振興ビジョン】

英語学習に留まらず、コミュニケーションツールとして駆使し、国際的な広い視野をもち、豊かな人間性を育むことを目指す。

3 派遣事業の概要

- ①派遣先: オーストラリア・シドニー
(言語、時差、治安、国民性、魅力などを考察)
- ②日程: 令和6年9月21日(土)～28日(土)7泊8日
- ③派遣人員: 中学生10名 随員2名
- ④研修内容
 - ・ホームステイ
 - ・現地プログラム(学校訪問、伝統文化体験等)
 - ・市内見学
- ⑤その他: 事前研修会(2回)、出発式、事後研修会(1回)、事後報告会

4 主な研修内容

①ホームステイ

○9月22日～26日(4泊5日)

○5グループ

○現地校に通う生徒宅やその周辺の
家庭

○自分の子どもと同じように扱って もら
い、普通の家庭生活を体験

【所感】

初日、2日目は、移動と緊張からか疲
れている様子でした。その後はコミュニ
ケーションが図られ、ホストファミリーとの
距離が縮まっていました。



② 学校訪問

St. Bithoy Coptic Orthodox
college
セントビショイ カレッジ

○9月23日～24日(2日間)

○キリスト教の教えを重んじた教育

○学校生活や服装等のルールが規定され、
他人への尊重を基本とした教育

○現地コーディネーターによる英語
研修及び授業交流

【所感】

午前中の英語プログラムでは、現地のコーディネーターが塾講師の経験もあるため、生徒たちのコミュニケーション能力を丁寧に引き出していました。

また、午後は現地校のバディのクラスの授業に参加して日本の授業(教科)との違いを学んだり、現地生徒との交流を深めたりするなど、生徒たちの積極性が感じられました。



③市内見学

ブラザー&シスタープログラム

○9月26日 1日

○3グループにより地元大学生と市内見学

【所感】

生徒たちは、事前に自分たちで行きたい場所を考え、計画を立てました。地元大学生にそれを英語で伝え、一日かけてシドニー市内(都市部)を散策しました。博物館なども見学し、オーストラリアの歴史や文化を学んでいました。

地元大学生からは、「生徒たちはリスニングには問題がないが積極性が足りない」との報告を受けました。しかし、大学生の声かけにより、自ら進んでコミュニケーションをとるようになるなど、一日の中でも成長が見られたようです。



5 最後に

今回の中学生海外派遣事業は、初めてのオーストラリア・シドニーへの派遣であり、日程調整が難しいものがありました。時期が卒業シーズンであり、学習やコミュニケーションを中心とした時間の確保が難しく、現地校での交流の時間が短かったように感じました。

現地校(私立)では、登下校は家族の送迎、部活動や清掃時間等もないこと、また、先生の勤務時間も打合せの日以外は午後4時前に終了するなど日本の学校との違いを感じました。

生徒たちは、短い期間ではありましたが、積極的に英語によるコミュニケーションを図ろうとするなど、成長を感じました。今後は、派遣事業による体験を活かし、国際的な視野をさらに広げ、本市への愛着を持って活躍されることを期待しています。